



北陸学院大学

レデック
REDeC

地域教育開発センター

活動報告書 2022

地域教育開発センター「REDeC: Regional Education Development Center」とは、北陸学院大学が行っている学問分野（幼児児童教育、英語及び英語教育、心理学、社会学、食生活その他の学問分野）に関する研究の成果をもって地域社会に貢献することを目的とする組織です。

2022 年度 参加人数
連続公開講座 2 講座名 121 名 REDeC セミナー 8 講座 125 名

2022 年度 テーマ *～ともに生きる～*

連続公開講座 *～いのちの重さと輝き～*



『こども食堂と私たちの地域・社会』

講師 湯浅 誠 氏 2022 年 7 月 9 日（土）

社会活動家
東京大学先端科学技術研究センター特任教授
全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長。

コロナ禍のため何度も延期されましたがようやく講師に湯浅誠氏をお迎えし『こども食堂と私たちの地域・社会』を開催することが出来ました。当日はデータを挙げられながら具体的にとても分かりやすくこども食堂や地域社会とのつながりなどについてお話をしていただき、活発な質疑応答もありました。参加者の方からは、「こども食堂はご飯を食べられない子どもが行く場所だと思って



いたけれど、そうではなくて、どんな子でも大人でも高齢者でも誰でも集える場所だと分かりました。」「以前より活動にかかわってみたいと思っていましたが、ハードルが少し下がった気がします。」「人から分からない黄信号の人が、青信号のふりして参加できる。SDGs が「良い先祖になる」良く分かりました。」「こども食堂では誰も困っている風に見えない、という言葉が印象に残りました。」などの感想をいただきました。学生だけでなく、多く参加された社会人の皆さんそれぞれの想いも掻き立てられる講演だったようです。

コーディネーター：田中純一 地域教育開発センター長（社会学科教授）

冬の連続公開講座 ～この地に生きる～

2022年10月8日（土）



『イタイタイ病との闘い 原告小松みよ ～患者の生涯と思いをひとりがたりで～』

講師 金澤 敏子 氏 氏

ドキュメンタリスト

細川嘉六ふるさと研究会 代表

イタイタイ病を語り継ぐ会 共同代表

冬の連続公開講座は、富山県在住のドキュメンタリスト金澤敏子氏を講師にお迎えし、『イタイタイ病との闘い 原告小松みよ～患者の生涯と思いをひとりがたりで～』を開催いたしました。当日は金澤さんが富山弁を交えながらイタイタイ病患者小松みよさんの苦しみ、悲しみ、怒り、苦難に満ちた生涯を映像を交えながらひとりがたりされ、想いを伝えられました。参加者の方からは、

「金澤さんの語り方がとてもリアルで本当に「イタイタイ」とい

う痛さがとても伝わってきました。」「市民として目をさましていることの重要性和金澤敏子さんというすばらしいお声のジャーナリストのあり方を学ばされました。」「今でも患者が200人もいるということにびっくりしました。」などの感想をいただきました。学生の皆さんが多く参加した講座で皆さんの心がおおきく動いたようでした。。



コーディネーター：田中純一 地域教育開発センター長（社会学科教授）

キリスト教関連講座

2022年8月27日（土）

「金沢の教会オルガン～共に生きる道を拓く音楽～」

講師 楠本 史郎 氏（北陸学院大学学長・学院院長）

谷内江 潤子 氏（オルガニスト）

春日 朋子 氏（オルガニスト）

キリスト教関連講座として、『金沢の教会オルガン～共に生きる道を拓く音楽～』を開催し市民の皆さんや教会関係者などのご参加をいただき、金沢の教会オルガンを巡るツアーが実施されました。金沢の教会に設置されているパイプオルガンは、それぞれ国の出自も製造した会社も異なっており、それだけに同じ地域にしながら多彩なオルガンの特徴的な調べを味わうことができます。当日は日本基督教団若草教会・金沢教会の両教会を訪ねてまわりながら、各オルガンの特徴の解説をうかがい、オルガニスト

の奏でる調べに静かに心の耳を傾けました。参加者からは「ふだん

聴く機会のない教会オルガンの音色を堪能することができてよかった」、「ぜひこの地域にある他のパイプオルガンの音色も味わってみたい」との喜びの声が寄せられました。



コーディネーター：矢澤励太 大学キリスト教センター長（栄養学科教授）

「能登半島地震 15 年～地域復興と再生～」

講師 荒木 正稔 氏 輪島市社会福祉協議会災害ボランティアセンター準備室
宮下 杏里 氏 総持寺通り協同組合 管理部長



社会連携講座「能登半島地震 15 年～地域復興と再生～」が開催され、学内外より多くの参加者があり、報道関係も新聞社だけでなくテレビ局も複数社取材に訪れた。

冒頭、田中純一地域教育開発センター長による『震災からの生活復興』と題する話題提供を受け、第一報告者である輪島市社会福祉協議会災害ボランティアセンター準備室 荒木正稔氏は『要配慮者に対する支援体制』と題し、能登半島地震以降課題となった要配慮者支援について、輪島市における震災後の見守り体制のご発表があった。続く第二報告『私が考える総持寺通り』では、能登半島地震後の過疎高齢化の進展により、元気を失いつつあった故郷である門前に戻り、若手の一員として総持寺通り再生に向けた取り組みについて、本学卒業生で輪島市櫛比の庄「禅の里交流館」管理部の宮下杏里氏によるご発表があった。

参加者からは「住んでいる人が生きがいを持てるような支援が必要だと改めて考えさせられる機会となった」「地域の役に立てる仕事に就きたいと思っていたので、(講師の) 宮下さんの「仕事がないなら自分でつくればいい」とおっしゃったことが心に響いた」「今回の講座を聞いて、大きなカテゴリーの中で施策を練るのではなく、一人ひとりの生活状況にあった個別復興施策が必要であることがわかった。そのためには学生である私たちがこの課題に取り組み、高齢者を救っていききたい」といった声が寄せられた。また、大学の地域の連携については「OB、OG が来ると関心が湧く」「大学の授業などで地域と関わる機会があればよい」「地域についてもっと知る機会を増やす」「授業で地域を訪れる」など、積極的な意見が挙げられた。

本報告は社会連携講座として開講しており、講座が受講者が地域課題について理解を深め、地域社会とつながる契機となれば幸いである。

コーディネーター：田中純一 地域教育開発センター長(社会学科教授)

生涯学習講座

「みんなで考えよう！～ わたしにできる事、みんなでできる事 ～」

講師 富岡 和久 氏(社会学科教授 ヘッセル記念図書館長)

2022 年 9 月 3 日 (土)

申込み者が少なかったため、中止となりました。

キャリアアップ講座

「管理栄養士国家試験対策講座」

キャリアアップ講座として「管理栄養士国家試験対策講座」を開講しました。ガイダンスからはじまり、12 講座を 6 日間の午前と午後の講座で行いました。この講座は管理栄養士国家試験合格を目指す栄養士の方ならどなたでも受講いただけます。2022 年度は本学以外の卒業生の方も含め 10 名の方が受講されました。講師は本学教員と外部講師が勤めそれぞれの分野ごとに出題傾向に沿って内容解説、模擬問題の演習、解説や留意点の補足等を行いました。また受講生各自が自宅で模擬試験も受験しすべての日程を終えることができました。

ガイダンス 2022 年 9 月 10 日（土）導入テスト他

開講日・科目・講師

- ①9 月 17 日（土） 栄養教育論：三田陽子 氏
基礎栄養学：新澤祥恵 氏
- ②9 月 24 日（土） 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち-生化学-：西正人 氏
食べ物と健康-食品学-：坂井亮介 氏
- ③10 月 1 日（土） 応用栄養学：俵万里子 氏
公衆栄養学：三田陽子 氏
- ④10 月 8 日（土） 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち-解剖生理学-：井関尚一 氏
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち-病理学-：井関尚一 氏
- ⑤10 月 15 日（土） 社会・環境と健康：木村敏行 氏
臨床栄養学：三井悦子 氏
- ⑥10 月 22 日（土） 食べ物と健康-食品衛生学：坂井良輔 氏
給食経営管理論：田中弘美 氏

短期大学部（食物栄養学科）

「災害時の食事」

2022 年 8 月 27 日（土）

講師 石川県栄養士会 高信雅子 氏

石川県栄養士会より高信雅子先生を講師にお迎えして、『災害時の食事』を開催し、7 グループの方が参加されました。災害時のような非常時での食事の留意点や、熱源と最小限の水があればポリ袋で料理ができる方法を学びました。講師の先生のリードで、ポリ袋の空気の抜き方や結び方、加熱の仕方などを一人ひとりが手を動かして覚えました。小学生のお子さんたちも楽しみながら積極的に挑戦。新聞紙で作る食器も 2 種類練習し、出来上がった「ごはん、おかゆ、ラタトゥイユ、切り干し大根のサラダ、さつまいもようかん」を作った食器で試食しました。参加者の方々からは「勉強になった、家でも作ってみたい」「個人の学びから地域の学びへと広がっていきたい」「ごはんがちゃんとごはんになっていてすごかった」などの感想がありました。



コーディネーター：俵 万里子（短期大学部食物栄養学科講師）
三田 陽子（健康科学部栄養学科講師）

「必ず役立つ介護食」

講師 石川県栄養士会 会員

2022 年 10 月 8 日(土)

申込み者が少なかったため、中止となりました。

短期大学部（コミュニティ文化学科）

「ラフカディオ・ハーンと日本の詩歌」

講師 茶谷 丹午 氏（コミュニティ文化学科助教）

2022 年 11 月 5 日(土)

本学のコミュニティ文化学科 茶谷 丹午 助教により「ラフカディオ・ハーンと日本の詩歌」が開催されました。

当日の参加者の方からは、「知的な刺激をととても受けて嬉しい事でした。」「想像していた以上に面白かったです。スパンサー哲学との関わりなども知ることができて、深まりました。」「とても面白かった。時間の進み方が違う話は近代的な感じ。万葉集や日本書紀にも「浦島太郎」の話があるとは知らなかった。日本の民話をもとにハーンが色々な作品を書いたことは興味深い。」などの感想をいただき充実した講座を楽しんでいただきました。

「これまでの観光とこれからの観光」

講師 沢田 史子 氏（コミュニティ文化学科教授）

2022 年 11 月 21 日(月)

申込み者が少なかったため、中止となりました。



人間総合学部（子ども教育学科）

「子どもとつなげる・子どもをつなげるパート 1～遊びを学びにつなぐ～」

講師 川真田 早苗 氏

2022 年 5 月 24 日(火)

申込み者が少なかったため、中止となりました。

「ことばから見えてくる心～日本語と英語の違うところ・同じところ～」

講師 宮浦 国江 氏（子ども教育学科教授 英語教育支援センター長）

2022年6月18日(土)



本学の子ども教育学科教授 宮浦 国江 氏による「ことばから見えてくる心～日本語と英語の違うところ・同じところ～」が開催されました。日ごろ何気なく使っていることばや絵本の対訳から、思いがけなく豊かなヒトの心の働きや日本語と英語の特徴が示され、ことばの豊かな世界を楽しむ時間となりました。

参加者からは、「普段考えることがないことを考えられる機会を得られてうれしかったです。もっと英語をこれから勉強したいなと思いました。」「英語の翻訳をするときの考えがあって面白かった。日本語に直訳した時の違和感が出てくる理由について分かった気がした。」

「単に日本語と英語の違いを並べて、こういうところが違うんだというだけでなく、数々の違いから見出されたルールや、同じところもまとめられていたので、内容は難しいものだったのですが、理解がしやすかったです。」などの感想が寄せられました。



人間総合学部（社会学科）

「経済学の考え方～時代と共に生きる経済～」

講師 井上 克洋 氏

2022年10月1日(土)

本学の社会学科准教授 井上 克洋 氏により「経済学の考え方～時代とともに生きる経済～」が開催されました。経済とは私たちの生活そのものでもあります。私たちの生活が時代と共に変化していくように、経済学も時代や社会の流れと共に変化していきます。本日の講義では、アダム＝スミスを中心に経済学者が生きた時代とその経済学が誕生した背景について解説し、それらを踏まえた上で現在の日本の経済問題、特に小泉改革やアベノミクスとアダム＝スミスの考え方との関係について聴講者と議論を交わしました。経済理論が誕生した時代的な限界を無視してそれを今日の政策に適用する場合の危険性を指摘する意見がでて、議論は大いに盛り上がりました。



「共生社会のことを知ろう」

講師 障害のある当事者の方

本学学生

田引 俊和 氏（社会学科教授）

2022 年 10 月 22 日（土）

（大学祭 2 日目）



栄光祭 2 日目に共生社会のことを知ろう」が開催されました。

本学社会学科教授の田引俊和氏と障害のある当事者の方、そのご家族、本学学生その他、一般の来場者が参加しました。

はじめに「共生社会」の本質や背景など事前に検討したことを本学学生が発表し、その上で障害のある当事者の方から率直なお話しをうかがい、最後に質疑応答と意見交換を行いました。

終了後には、「それ（共生社会）を目指すあまり『障害』や『支援方法』にばかり目が行き『個人』として捉えることがおそろしくなってしまう可能性がある」、「そもそも『共生』『障害』『健常者』といった表現そのものに違和感がある」といった意見が出され、近年よく聞く「共生社会」ということについてあらためて考える機会となりました。

出張講座

本学教員が会場に出向き、無料で一般の方向けに講義を行っている出張講座は、2022 年度は 17 団体からのお申し込みを受け、14 回、延べ 272 名の方が聴講しました。

◇地域教育開発センターには学生が率先して展開している事業があります◇

よりそいの花プロジェクト

よりそいの花プロジェクトは東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市の支援をきっかけに 2012 年に発足しました。自然災害で被災された全国各地を訪れ、住民の方々と共に歩みながら災害復興や地域振興に向けた活動をしています。



2022 年度は 8 月に豪雨被害を受けた小松市中海地区での災害ボランティア活動（片付け、写真洗浄、サロン活動ほか）、七尾市崎山地区でのご縁米活動（田植え、稲刈り、精米作業。ご縁米は大学の教職員や中高の同窓会で多くの予約を取ったうえで大学祭で販売しました。お陰様で好評をいただきました）、クリーンビーチ活動などに力をいれました。

クリエイショングループ

北陸学院大学クリエイショングループは、行政や地域団体からの依頼を受けてイベントスタッフとして活動し、子ども向けの参加型ステージパフォーマンスを提供しています



2022 年度は桜木幼稚園の夏のお話し会、奥卯辰山健民公園のはだしの王国、産業展示館での子育て支援メッセージしかわ、芳斉児童館のクリスマス会ほかで、作成した教材を使ったパフォーマンス披露や、イベント運営のさまざまな補助を行うことが出来ました。また栄光祭でオレンジリボンキャンペーンを行い来場者にグッズの配布等も行いました。

スイーツ研究所

北陸学院大学スイーツ研究所は地元食材を使用したオリジナルスイーツやアレルギー対応のスイーツなど、安心して美味しいスイーツの開発に取り組んでいます



2022 年度も新作スイーツを研究し、学内販売を何度か行いました。（七尾市崎山のイチゴを使ったミルクプリン、小豆ミルクプリン、チョコプリン、7 種類のマドレーヌ、3 種類のカヌレ）また、大学祭でもスイーツ販売を行い好評を得ました。

キャンパス活性化プロジェクト

帰属意識を高める取り組みの一環として、学生同士の協力を深め、地域住民とのつながりを築く活動を行っています。キャンパスの花壇に花を植えたり、美化活動に積極的に取り組んだりしています



2022 年度の活動では、玄関前芝生テラスの白いテーブルとイスの補修や、階段両脇のポールの補修を主に行いました。みんなが気持ちよく楽しく過ごせるように美化に努めています。

2022 年度北陸学院大学公開講座・REDeC セミナーへ多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。

2023 年度も皆様に喜んでいただける講座を多数ご用意し、お待ちしております。



北陸学院大学
学術情報研究・社会連携センター
地域教育開発センター

〒920-1396
石川県金沢市三小牛町イ11番地
TEL:076-280-3856
E-Mail:reddec@hokurikugakuin.ac.jp